

ぱんくマガジン 1985 12 No 69

事務局: 長崎市

澤田尚美方 (〒 tel

編集人: 葛西よう子: 長崎市

落合恵子著

「A列車で行こう」

61.4.4

松達ぼんやマンが講演会を楽しくにぎやかに開催したいとコンタクトを続けている落合恵子さん。最新の短編小説集「A列車で行こう」が送られてきました。いくつかの短編が重なり合っている。全体としてある種のバンドのメンバーの生い立ちと現状と、それをとりまく魅力的な三人の女性の生活が描き彫りにされている。そして、これら小説集では、もうすぐぼんやマン達がお話し読みの十一月例会では、まずその感想を話し合う事からはいじめました。

著者さん、ありがとう。

全員一致で「著者さん」としての最初の作品でした。一人の男性と愛した二人の女性の物語です。一人は若人の突然の死で酒と薬にのめり込んで、天や、ジマズシガー。自分の哀しみを表現するのは自分の体を傷つける事でした。それがバンドリーダーの心を動かし、男性のそのリーダーは、彼女を大切に、可愛がり保護し、再び歌える様にと敵身の限りをマ

す。この人物に「おはようやまし」「自然にさうやう風になりたい」「何と無理ね」と口々に言います。死んだ男の事だ。邦子に一同の共感が集まりました。大学で共に活動した夫婦が、社会人となった後、独立した仕事につくと成功した妻と、いつまでも自分が仕事だ。というものにめり合えず、フリーのジャーナリストとして小さな仕事をくり返してゆく夫との間に出来る亀裂。それを埋めようと、やまゆりの限りを尽くして努力する妻。妻の心遣いが理解出来ず、出来ず、出来ず。嵐州を重傷で行く夫。二人のすれ違いが行く。心ごとくもよくわかります。それと共に一人ひとりと、心ごとくも頭をもち上げ、来る男のメンツとか、強がりとか、今迄のこの国の男性中心の社会が、長い年月をかけた男性の心の中に、つらつと来たもう一つのくぐり、が、とても長く描きだされてきました。二人の男女が、ごく自然に互いに尊重する。個々として向き合い、助け合える。事柄が、こももつ、か、い、という事もよくひける。さ、い、愛、という夫の中に、自分より弱い心を持つ。シガーが住みついている事を知り、突然の事故で、その夫に先立

女のノート3年

六年前から長崎の「ばってん・うーまんの会」が発行している。ちょっと大判(22cm×16cm)の日記風手帳。開き六日間が三年分記入できる。去年の今日は何をしてたか、来年の今日あれやつとかなきゃ、というユニークな使い方ができる。育児日記としても最適と使用者の声。生理



カレンダーの他、知っておきたい言葉(女の年金帳、パートで働くとき必要な知識、均等法など)の説明がついている。定価千二百円。送料三百円。長崎市古川町8-25 津田尚美方 ばってん・うーまんの会 0958(24) 5076 郵便振替 長崎013413

婦人民主新聞

1985年11月15日付

マスコミにけいれいされた「女のノート」を一部お知らせします。北海道 網走市から 鹿児島県 種子島、そして沖縄からも注文が来て、今お達はともけいれい。忙しい日々を送っています。12月10日には増刷分も入荷します。おかげさ

一九八五年九月二十六日付

時事問題解説も付きました

ばってん・うーまんの会 好評、二冊目を発行



長崎市内で女性の地位向上を目指し活動が続いている「ばってん・うーまんの会」(長崎女性問題研究会)津田尚美事務局長がこのほど、三年間使える日記帳「女のノート3年」を発行した。五十五年(1940年)に初刊して以来、五十八年(1973年)まで三冊目。同会は発足して十三年、会員は市内に住む働く女性や主婦を中心に二十人。これまでに男女平等の理解を広げよう、と文化講演会(五十二年

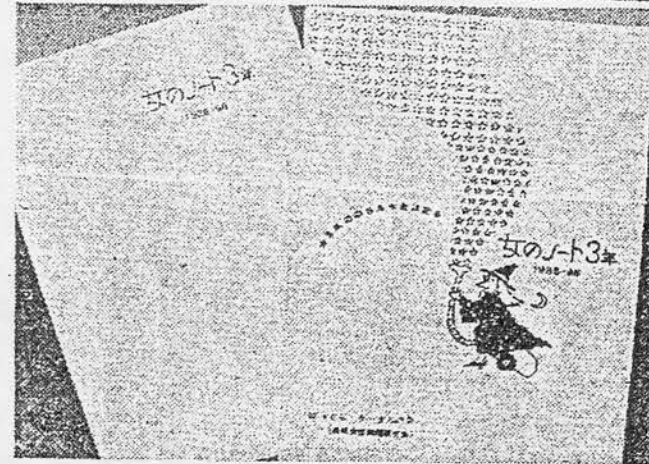
「五十五年まで四回」や公開講座(五十五年市民会館)などに取り組んできた。

「日記帳」は「ともすれば日常の雑事に追われがちな女性」に、計画性と目標を立てた生活を」と企画した。構成は、三年間の動きをひと目でつかめるように、毎日の書き込み欄が三年分横並びになっており、前年さらに前々年の同月同日に何をしていたのかわかる。

これに、今回の場合、月初めに「婦人差別撤廃条約」「民法および国籍法の改正」「ウーマンリブ」……と、女に関する用語、時事問題の解説が付く。これまでの利用者からは「子育て日記として重宝だ」「初産までの経緯の日程がわかる」と好評。

同会は昨年、収益で長崎市

の中央公民館図書室に女性に関する書物三百五十冊を寄贈しており「今回も文庫を補充したい」と話している。日記帳はA5判、九十円で四千部印刷。長崎市の好文堂書店で一冊千二百円で発売中。



発行3冊目の「女のノート3年」